

生ごみを堆肥にして家庭菜園やガーデニングを楽しみませんか

段ボール箱を使って

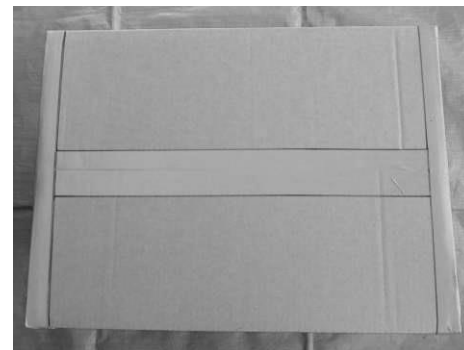
◎用意するもの

- ・段ボール箱（二重になった厚めのもの、大きさはリンゴ箱程度 縦30cm 横45cm 高さ30cm）
- ・とこさい床材：ピートモス15ℓ+もみ殻くん炭10ℓ（または、腐葉土5kg+米ぬか3kg）
- ・新聞紙（2日分位）・ガムテープ・温度計
- ・移植ばら・ゴム手袋等（混ぜるときに使用）
- ・土台用箱（ビールケース・段ボール箱等）



◎準備

- ①段ボール箱はふたを立てて、床材がこぼれないように、底が抜けないように、ガムテープで補強します。
- ②箱の底に新聞紙を折りたたんで敷きます。（その上に段ボールの板を置くと扱いやすくなります。）



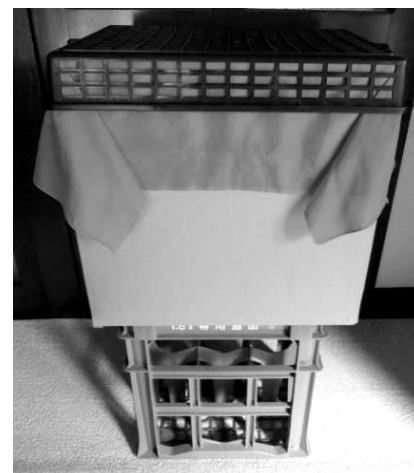
（段ボール箱の底）



- ③ピートモスともみ殻くん炭（または、腐葉土と米ぬか）をよく混ぜて、箱に入れ、床材（微生物のすみか）にします。
- ④段ボール箱は、ビールケース等を土台にして、下からも通気を図るようにします。

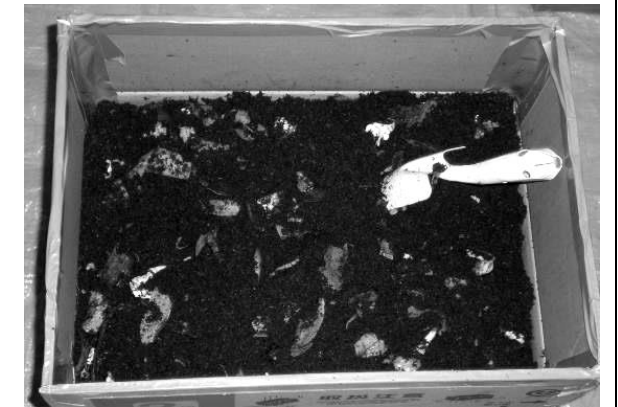
◎設置場所

- ・雨の当たらない所で、物置・テラス・車庫などに置いてください。（部屋の中は、おすすめしません。）
- ・虫が入らないようにネットや布をかけます。ビニール袋などで覆わないでください。
- ・温度が高いと微生物の活動は盛んになります。



◎さあ始めましょう（日常の処理）

- ①段ボール箱の中に生ごみを入れ、床材とよく混ぜます。（酸素を好む微生物が分解してくれるので空気をたっぷり与えるようにします。）
- ②最初の1~2週間は、発酵分解は始まりませんが、続けていくうちに、微生物が分解してくれます。
- ③不在で休んだ後は、しっかりかき混ぜて空気を入れます。



◎普段の管理（アドバイス）

- ・入れてはいけないもの
輪ゴム、プラスチック類、金属類、たばこの吸い殻など
- ・分解しにくいもの、または避けた方がよいもの
貝がらや梅干しの種・鳥の骨など
塩分の強いもの（ぬか床など）
- ・生ごみは細かくすると分解しやすくなります。
- ・表面に白いカビ状のものが発生することがありますが、微生物が働いている証拠なので心配ありません。
- ・発酵が進むと温度が上がって、発酵臭がでます。
- ・小バエが発生した時は、米ぬかを混ぜて温度を上げると、小バエはいなくなります。
- ・発酵が鈍くなったときは、米ぬかを入れてかき混ぜます。

◎段ボール箱1個で利用できる期間

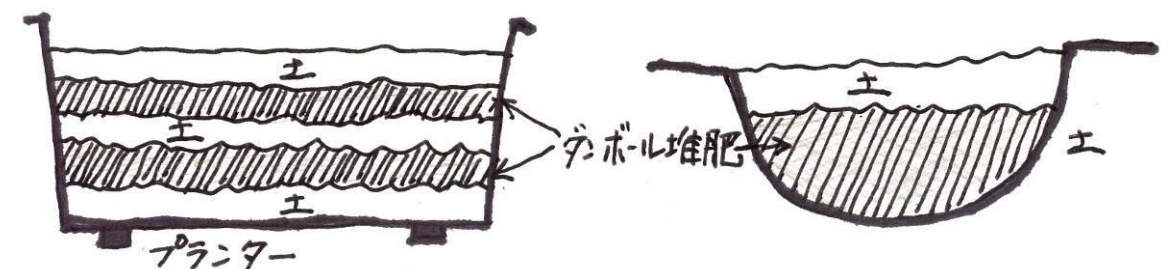
- ・1日の生ごみの平均が500gくらいで3ヶ月程度です。
- ・2ヶ月を過ぎると発酵が鈍くなり、箱も弱くなります。
- ・床材がべたついたり（水分が多い）ダマ（固まりが多い状態）になってきたら終了です。



この段階では、まだ、未熟な堆肥です。

◎完熟堆肥にします

- ・段ボール箱で作った生ごみ堆肥を下図のように土と混ぜて1ヶ月程度寝かせてください。
- ☆最終的に、土か、投入した生ごみか、判らなくなっていれば使用可能です。



コンポスト見なおし隊